

標 題:

船用燃料油の分析鑑定業務開始のご案内

NK
テクニカル
インフォメーション

No. 24

昭和59年 月 日

担当
井筒

関係船主、造船所各位

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、石油の需要と供給の関係に加えて船主経済上からも船用燃料油は、今後ますます低質化が予想されます。従来、常圧蒸留や減圧蒸留を主としていた石油精製法も最近の石油事情より軽質油分の取得の多い熱分解、接触分解等の精製法が積極的に取り入れられており、これら残渣油は重質化するため、これを基材とする船用重油は高比重、高粘度化し、残留炭素、アスファルテン分は増加、燃焼性、安定性は低下して低質化の傾向にあります。

また特に接触分解装置に使用される触媒が燃料油中に混入し、種々の問題を生じています。

この様に重油の低質化に併って船用機関へのトラブルも数多く報告されており、運航管理上問題となるケースも発生しています。

この対策には色々と検討がなされていますが、このためには、まず燃料油の性状を把握することが重要で、これにより、適切な取扱いも可能となります。

このたび本会に於ては、この燃料油対策の一環として船主各位の一助となるべく燃料油の性状チェックのための分析鑑定業務を開始しました。

分析試験は本会と契約している御京都科学研究所（御島津製作所の系列会社）にて行い、通常の一般分析試験は下記の通り15項目あり、全項目を分析するAコース、比重、粘度、水分、硫黄分、アルミニウム、シリコンの6項目のみを分析するBコースがあります。

試験項目		分析規格
(1) 比 重	15/4 ℃	JIS K 2249
(2) 粘 度	50℃ CST	" K 2283
(3) 引火点	℃ P.M.	" K 2265
(4) 流動点	℃	" K 2269
(5) 水 分	% Vol.	" K 2275
(6) 水泥分	% Vol.	" K 2601
(7) 残留炭素	% WT.	" K 2270
(8) アスファルテン	% WT.	Mod.ASTM D 893

(9) 灰 分	% WT.	JIS K 2272
(10) 硫黄分	% WT.	" K 2541
(11) 親和性		ASTM D 2781
(12) バナジウム	PPM	ICP
(13) ナトリウム	PPM	ICP
(14) アルミニウム	PPM	ICP
(15) シリコン	PPM	ICP

又、上記以外の試験項目についても要請があれば行います。試料の運搬は、日本国内の場合は宅配便を利用し、国外からはクーリエサービス（DHL）の特急便により行われます。

分析は試料が分析機関へ到着しだい行われ、試験結果は本会担当部門に於て検討の上、必要なコメントを加えて直ちに依頼者へご報告いたします。

尚、業務の詳細につきましては本会本部技師長又は支部／事務所へお問合せ下さい。

以 上